



常山の ように

～ともに遊び ともに学び ともに育つ～

令和5年10月2日発行



「主体的に学ぶ子ども」をめざして

澄み切った秋空の下、毎日いろいろなことにチャレンジしている子どもたちです。これからも、子どもたちが自信をもって、笑顔で前に進めるように、教師は「伴走者」として子どもたちの成長を支援していきます。

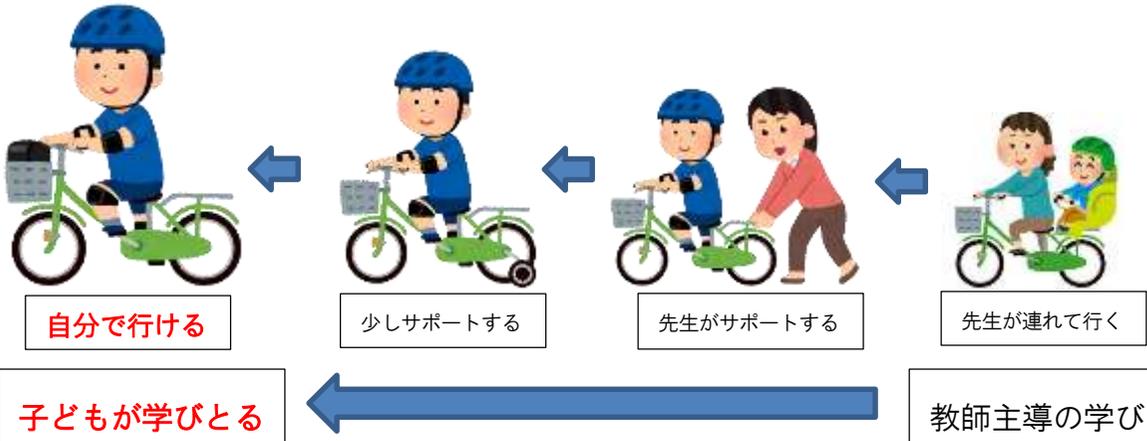
荘内小「学びのサイクル」

荘内小学校ではこれまで、毎日の授業で「①めあてをもつ→②自分の考えをもつ→③整理・分析する→④まとめをする→⑤振り返る」という【学びのサイクル】を繰り返すことにより、主体的に学ぶ子どもの育成に取り組んできました。

今年度はさらに、タブレットを有効に活用することで、子どもたちの学びがより主体的になる授業づくり（家庭学習）に取り組んでいます。



なぜ「主体的な学び」が必要なのか



今までは **先生が連れて行く**「教師主導の知識伝達・再生型の学び」
・先生に教えてもらった学びをテストで再生できればOK!
好成績→進学（学歴）→入社→ある意味ゴール

★これからは **自分で行ける**「自分で学びとる学び」（主体的・対話的で深い学び）
・先生に教えてもらわなくても自分で学びとることができればOK!
入社→自分で学ぶ→スキルアップ→成果 の繰り返し

参考：文部科学省学校DX戦略アドバイザー 菅野光明先生講演「GIGAで新しい授業観へ」

時代が急速に変化している今、子どもたちは、大人になっても自分で学びながらスキルアップしていく必要があります。先生やおうちの人がいなければできない学びは、通用しなくなります。子どもたちが「自分で学ぶ力」を身につけられるように、少しずつ学びを子どもたちに委ねているところです。

個別最適な学び・協働的な学びに向けて

個別最適な学び…全ての子どもに学力を習得させるために、一人一人に合った柔軟な指導をすること

協働的な学び…一人一人の異なる考え方を子ども同士、また多様な人々と協働してより良い学びにつなげること

この二つの学びがよりよく連携することで「自分で学びとる学び」（主体的・対話的で深い学び）の効果を促進します。そして、この学びに欠かせないのが一人一台の学習用端末です。

荘内小は今年度、文科省の「**リーディングDX事業実践校**」に指定されました。荘内小での実践を市内はもちろん、県内、全国へ発信しています。ホームページには、子どもたちがタブレットを活用した授業の様子を写真と一緒に掲載していますので、ぜひご覧ください。

